

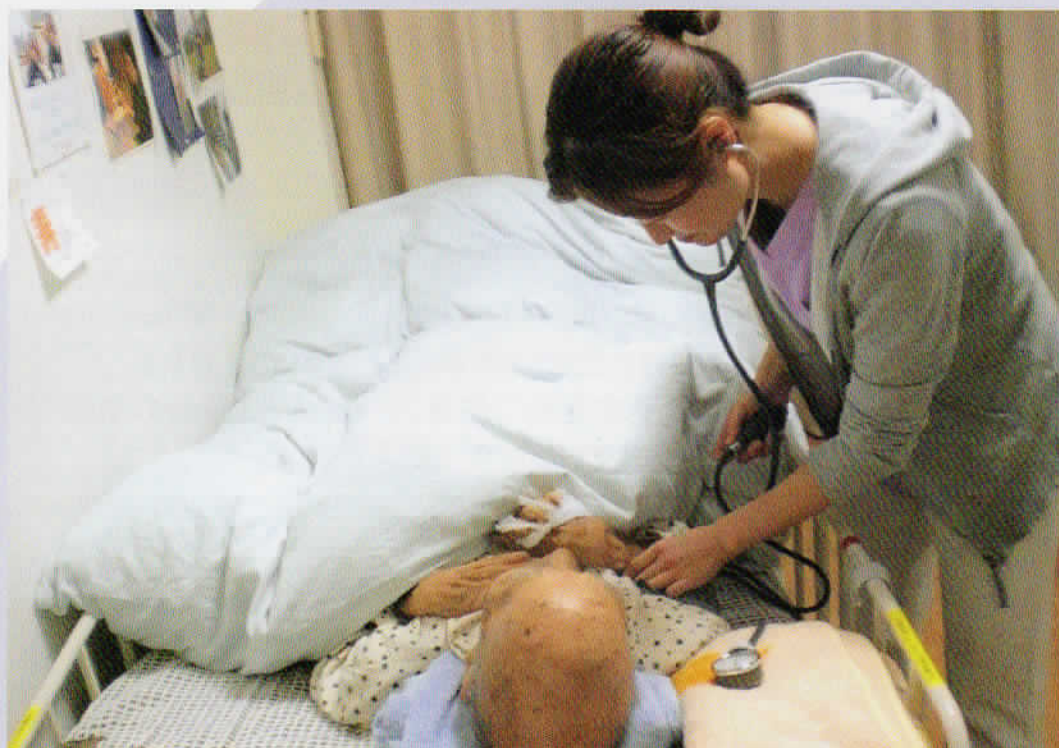
# 医療タイムス

週刊医療界レポート

2013.11/18 No.2134

特集

## 24時間の訪問看護は実現可能か!? 機能強化型ステーションの創設を目指す



タイムスインタビュー

福祉(介護)タクシー事業に参入  
地域で超高齢社会を支える一翼に

株式会社A'ZUMA  
代表取締役社長

荒井昭博氏

タイムスレポート

業界再編、人材確保の困難  
5年後を見据えM&Aを決断

Top News

小児慢性疾患 自己負担増額を了承 社保審児童部会  
診療報酬改定で骨子案を示す 厚労省

# 医師だからできる経営実践術

## 勝つための必須項目 その29

### 人材育成

どんな組織も、その活動を継続するために人材育成は必要です。人材育成には、量的な側面と、質的な側面があります。特に私は、質的な側面が重要だと考えています。

人材育成のやり方は、とても豊富であり、専門家も大勢います。欧米流のやり方もあるかもしれませんが、日本古来のやり方もあります。私の父は古い商売人です。幼いころより、人から教わるのではなく「見て覚えなさい」とことあるごとにいわれた記憶があります。

実際、医師になり臨床の現場に出ると父の言葉の意味がよく分かりました。私は放射線科のIVR(カテーテル治療)を専門としています。当然、疾患や血管に応じてカテーテルを選択する場面が頻繁に起こります。直径数ミリほどの細い動脈にカテーテルを挿入し病変部まで到達させなくては、治療を開始することができません。先輩医師がどのようにガイドワイヤーやカテーテルを操作し、どうやってトルクを加えて目的部位まで到達させるのかを助手をしながら観察したものです。また、先輩医師がスムーズに治療が行えるよう、頭の中では「次に何が必要となるのか」「次の段階でこの器具が必要となるだろう」とシミュレーションしながら助手としての役割をこなしました。当然もたつけば、罵声を浴びさせられましたし、ときには器具を投げつけられます。厳しい指導のもとで技術を覚えていったわけです。

印象としては日本古来のやり方に近かったのではと思います。人の命に関わる治療・手技を行っているのですから、指導が厳しかったのは当然といえば当然でしょう。助手としての経験を積み、晴れてオペレーターとしてカテーテルを握ることができます。しかし、はじめのうちは先輩医師のようにスムーズに短時間で病変部にカテーテルを到達させることができませんでした。判断に迷うこともありました。先輩医師の2~3倍の時間をかけてようやく終了となるケースも多々ありました。多くの症例を経験するに従い、短時間で



放射線科専門医  
(株)SEM medical solution代表取締役  
医療法人社団南星会理事長(湘南な  
ぎさ診療所、湘南ライフタウン診療所、  
湘南なぎさ訪問看護リハビリステーション)

しまだえいじ  
**島田栄治**

1969年生まれ、1994年東邦大学医学部卒業、国立病院機構災害医療センター放射線科医長を経て、2005年(有)SEM medical solution設立。2007年湘南なぎさ診療所開業。

正確な治療を行うことが可能となっていきまし、さらに経験を積むことで術中の判断を素早く行うことができるようになりました。

これはあくまでも自分自身の目線で見ただけです。では、指導者である先輩医師はどのように感じていたのでしょうか。あくまでも私自身の経験ですが、一言でいえば「我慢」です。経験の浅い医師にカテーテルを握らせて治療をさせるわけですから、当然時間がかかります。自分がやれば数分で治療できるのに、倍以上の時間を要します。しかし、経験をさせない限り技術は身につけませんので、極力手を出さずに見守りながら口頭でアドバイスや指導を行います。もちろん判断を誤ったり、患者に負担をかけるようであればオペレーションを交代し、ときにはリカバーも行わなくてはなりません。かなりの時間と根気を要することといえます。

おそらくこうした経験は、医療だけではなく、あらゆる分野・業界に共通することだと思います。組織の中で仕事をするということは、自分の部下、後輩、さらにその下の世代に技術や経験、知識を伝えていかなくてはならないからです。そのためには根気と、時間を要することを覚悟しなくてはなりません。そして、かつて自分も先輩や上司から技術を学んだ経験があるのであれば、それだけの労力と時間が費やされているということを忘れてはいけません。自分一人で、技術と経験を手に入れるなんてことは、非常に難しいことです。子どものころ、いたずらをする父親に「丁稚奉公に出すぞ!」とよく叱られたのを思い出します。今では死語に近い言葉ですが、私にとっては今でも新鮮で、身近に感じる言葉なのです。